

# 大阪の博覧会

## —第五回内国博から2025大阪・関西万博まで—

令和2(2020)年は1970年大阪万博が開催されて50周年を迎えました。また、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の開催も決定されたことから、明治期の第五回内国勸業博覧会、1970年大阪万博、2025年大阪・関西万博について、4名の講師に多方面からお話いただきます。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、中止または延期する場合があります。

### 第1回 1月24日(日) 明治期の大阪と国際的博覧会の誕生： 第五回内国勸業博覧会

講師：山路 勝彦 氏 (関西学院大学名誉教授)

### 第2回 1月31日(日) 未来へのメッセージ～70年万博と小松左京

講師：小松 実盛 氏 (小松左京氏 次男)

### 第3回 2月7日(日) 再生医療と inochi 万博2025

講師：澤 芳樹 氏 (大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科教授)

### 第4回 2月14日(日) 1970年大阪万博の建築と美術

#### —2025年に続く遺伝子

講師：三木 学 氏 (文筆家、編集者、色彩研究者、ソフトウェアプランナー)

●時間● 午後2時から3時30分  
(開場 午後1時15分)

●定員● 100名 ●入場無料

(事前申込・応募多数の場合は抽選)

●会場● 大阪市立中央図書館  
5階大会議室

▼主催・お問い合わせ▼

大阪市立中央図書館 利用サービス担当

〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2

電話：06-6539-3302

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp>



当館 HP お知らせページ

大阪検定協力事業

<申込方法> 講座ごとに 往復はがき または インターネット からお申し込みください

【往復はがき】 1枚のはがきで1名のみ。ご希望の講座(第〇回)・名前・ふりがな・住所・電話番号を明記して、下記の宛先までお送りください。

宛先：〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2  
大阪市立中央図書館「大阪連続講座 第〇回」係

【インターネット】 図書館ホームページ  
[https://www.oml.city.osaka.lg.jp/index.php?key=jodij2l4y-510#\\_510](https://www.oml.city.osaka.lg.jp/index.php?key=jodij2l4y-510#_510)  
にアクセスの上、各回の所定フォームからお申込みください。  
(各回のQRコードは内面をご覧ください。)

★申込締切： 第1回 令和3(2021)年1月8日(金曜日) 当日必着  
第2回 令和3(2021)年1月12日(火曜日) 当日必着  
第3回 令和3(2021)年1月19日(火曜日) 当日必着  
第4回 令和3(2021)年1月26日(火曜日) 当日必着

★手話通訳ご希望の方は申込が必要です。

各回とも申込締切日までにご希望の講座(第〇回)・お名前・ご連絡先を明記して、手話通訳希望とお申込みください。(FAX：06-6539-3335)

- 図書館では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行って、催しを実施します。
  - ・ 参加予定者数に合わせて2倍以上の定員の部屋を用意します。
  - ・ 座席は、間隔をあけて配置します。
  - ・ 適宜、換気を行います。
  - ・ 開催前後に、使用した部屋のドアノブや机などの清拭を行います。
  - ・ 職員はマスクを着用します。また、フェイスガードを使用させていただく場合があります。
- 参加者の皆様は、以下のご協力をお願いします。
  - ・ 発熱がある、咳が出る、息苦しい、味覚がないなど異常を感じる場合は来館をお控えください。
  - ・ マスクの着用をお願いします(2歳未満のお子様は不要です)。
  - ・ 入場前に、手洗いまたは、窓口に設置している手指用消毒液による消毒をお願いします。
  - ・ 体調の確認のため、開始前に会場での体温測定(非接触式電子温度計を使用します)へのご協力をお願いします。
  - ・ 大声での発声や会話はお控えください。
- 参加者の新型コロナウイルス感染が判明した場合は、個人情報をお知らせください。



Osaka Metro 千日前線・長堀鶴見緑地線  
西長堀駅7番出口すぐ

## 第1回

### 1月24日(日) 明治期の大阪と国際的博覧会の誕生： 第五回内国勧業博覧会

申込締切：令和3年1月8日(金)  
※当日必着

明治36年、大阪・天王寺公園で、諸外国の参加を得て第五回内国勧業博覧会が開催されました。この大規模な博覧会は、大阪の歴史に大きな足跡を残した。その博覧会の概要を追ってみたいと思います。

1 渋沢栄一とパリ万国博覧会、2 大久保利通と内国勧業博覧会、3 住友吉左衛門と第五回内国勧業博覧会、4 外国からの参加と国際的博覧会、5 近代化の装置と展示の世界、6 遊興空間、余興とイルミネーション、7 博覧会後と天王寺公園



当館 HP 第1回講座お知らせページ

山路 勝彦 (やまじ かつひこ) 氏  
(関西学院大学名誉教授)

東京都立大学大学院博士課程(社会人類学専攻)終了。社会学博士(関西学院大学)。関西学院大学社会学部教授を経て、現在、名誉教授。『近代日本の植民地博覧会』(風響社 2008)、『台湾タイヤル族の100年』(風響社 2011)、『大阪、賑わいの日々：二つの万国博覧会の解剖学』(関西学院大学出版会 2014)、編著に『日本の人類学：植民地主義、異文化研究、学術調査の歴史』(関西学院大学出版会 2011)『地方都市の覚醒：大正昭和戦前史 博覧会編』(関西学院大学出版会 2017)など。

## 第3回

### 2月7日(日) 再生医療と inochi 万博 2025

申込締切：令和3年1月19日(火)  
※当日必着

大阪大学では、重症心不全患者に対して心臓移植や人工心臓に代わる第3の治療法として20年以上心筋再生医療の開発研究を行い、今まさに実ろうとしています。これらの心筋再生医療の成果は20年後の心不全を克服する画期的な医療となっていることが予想されます。inochi 万博 2025において、まさに「いのちを拓げる」「いのちを守る」そして「いのちを響き合わせる」テーマにつながっていくことが期待されています。



当館 HP 第3回講座お知らせページ

澤 芳樹 (さわ よしき) 氏

(大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科教授)

1980年大阪大学医学部第一外科入局、1989年-1991年ドイツ Max-Planck 研究所心臓生理学部門、心臓外科部門に留学。2006年より大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科教授(現職)。大阪大学では医学部附属病院未来医療センター長、臨床医工学融合研究教育センター長、附属病院副病院長、未来医療開発部長、国際医療センター長、医学系研究科長・医学部長などを歴任。日本胸部外科学会、日本再生医療学会理事長なども兼務。

## 第2回

### 1月31日(日) 未来へのメッセージ~70年万博と小松左京

申込締切：令和3年1月12日(火)  
※当日必着

半世紀前、小松左京は関西の新進気鋭の文化人による知的ボランティア「万国博を考える会」での活動を通し、70年大阪万博に深くかかわりました。没後発見された資料をもとに、「万国博を考える会」の真実を浮き彫りにし、現在の状況と比較することで、2025 関西・大阪万博が直面している様々な課題を考察します。



当館 HP 第2回講座お知らせページ

小松 実盛 (こまつ さねもり) 氏  
(小松左京氏 次男)

小松左京の遺族として、小松左京の著作物、資料を研究。『小松左京の猫理想郷 (ネコトピア)』(竹書房 2016)で、猫エッセー「SF 一家のネコニクル」を発表。新装版の『アメリカの壁』(文藝春秋 2017)、『復活の日』(2018)、『ゴルドニアの結び目』(2018)、『地には平和を』(2019)『日本沈没』(すべて KADOKAWA 2020)における解説。『やぶれかぶれ青春記・大阪万博奮闘記』(新潮社 2018)では、漫画家時代の小松左京について紹介する「青春記」に書かれなかったこと—漫画家としての小松左京」を執筆。小松左京ライブラリ名義で KADOKAWA、徳間書店における小松左京の電子書籍の解説 30 作以上を担当。

## 第4回

### 2月14日(日) 1970年大阪万博の建築と美術 —2025年に続く遺伝子

申込締切：令和3年1月26日(火)  
※当日必着

大阪万博は、アナログによるマルチメディア芸術の祭典でした。多くの建築家、美術家、デザイナー、映像作家、音楽家などが参加し、さまざまなメディアを統合させた展示空間を作り上げました。「未来都市のコアモデル」と位置付けられた会場計画、基幹施設、主要なパビリオンや展示からその革新性を紹介します。また、大阪の都市空間への影響や現在も残る「太陽の塔」から2025年に続く遺伝子を読み解きます。



当館 HP 第4回講座お知らせページ

三木 学 (みき まなぶ) 氏

(文筆家・編集者・色彩研究者)

独自のイメージ研究を基に、現代アート・建築・写真・色彩・音楽などのジャンル、書籍・空間・ソフトウェアなどメディアを横断した著述・編集を行っている。大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会委員。大阪万博関連の研究に、『太陽の塔』の図像学 試論『10+1』No.36(INAX 出版 2004)、『新・大阪モダン建築—戦後復興から EXPO '70 の都市へ—』(青幻舎 2019)。編著に『大大阪モダン建築』(青幻舎 2007)、『キュラトリアル・ターン』(昭和堂 2020)など。展示に「アーティストの虹—色景」『あいちトリエンナーレ 2016』(愛知 2016)、「ニュー・ファンタスマゴリア」(京都芸術センター 2017)など。ソフトウェアに、画像色解析システム『Feelimage Analyzer』(ビバコンピュータ、IPA ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー2009 受賞)など。